①教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

大学

教員養成に対する理念・構想
川崎医療福祉大学は、川崎学園創設の理念をうけた『人間をつくる、体をつくる、医療福祉学をきわめる』を大学理念として、『幅広い知識と技能を身につけることにより、医療福祉を総合的に考え、多様なニーズに応えることができる、豊かな福祉社会の創造的担い手を育成する。』ことをめざしている。教育理念は、『人類への奉仕のあり方を追求し、より豊かな福祉社会の創造的担い手を育成すること』であり、「教育基本法及び学校教育法に基づき、医療と福祉の両分野にまたがる高い知識と優れた技能を併せ備えた有能にして社会の要請に応え得る有為な人材を養成する」ことを目的とした「医療福祉人」の育成を目指している。本学の学生、卒業生・修了生らは、1991（平成3）年の開学以来、わが国のさまざまな分野において活躍している。 さて、現在わが国の将来の担い手である青少年は急激な社会変化にさらされており、学校教育を中心にそれらに対応するための変革が進められている。また、その一環として学校と家庭･地域との連携も強く求められており、社会全体で青少年の育成をするべく三者が協力することが急務となっている。すなわち、これら三者に対する充分な知識･見識と対応能力を身につけた者が学校教育の一翼を担う時代であり、それは家庭･地域と密接にかかわる「医療福祉」の理論と実践を修得した者であるとも言えよう。 したがって、本学の教員養成に対する理念は、前述の教育理念にもとづいた高度な科学性と専門性が求められる医療・保健・福祉についての専門家であると同時に、青少年及び教育についての知見と社会変化に対応できる充分な教育能力を有する教員を養成するところにある。